

## 「術後鎮痛の上手な選び方, 使い方」によせて

齊藤洋司\*<sup>1</sup> 山本 健\*<sup>2</sup>

レミフェンタニルを用いた静脈麻酔の普及, フォンダパリヌクスのような長時間作用性抗凝固薬を用いた周術期肺塞栓症予防など, 麻酔を取り巻く最近の変化は新しい時代の術後鎮痛という課題を提起している. 個々の患者に合わせて, 全身状態や手術侵襲の程度を考慮し, 安全性および有効性の高い術後鎮痛を提供することが求められる. どの術後鎮痛法を選ばばよいか, 選ばれた鎮痛法にどのような薬物をどのように使うのか. その答えを導き出すために, 日本臨床麻酔学会第29回大会パネルディスカッション「術後鎮痛の上手な選び方, 使い方」において, 代表的な3つの術後鎮痛法であるIV-PCA法, 硬膜

外鎮痛法, 末梢神経ブロック鎮痛法の視点から, 加えて術後疼痛管理を担うシステムの視点から, パネリストに自験例と文献的レビューを交えて概説していただいた. それぞれの利点, 欠点を中心とした特徴を明らかにしたうえで, 適応, 選択, 実施体制を含めた具体的な実践法について検討し, 術後鎮痛の上手な選び方, 使い方の決め手となる根拠について議論を深めるうえでの基盤となったパネリストの講演を本稿にまとめていただいた. 明日からの上手な術後鎮痛法の選択と実践に必ず役立つものと期待する.

\*<sup>1</sup> 島根大学医学部麻酔科学

\*<sup>2</sup> 金沢大学医学系麻酔・蘇生学

著者連絡先 齊藤洋司  
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1  
島根大学医学部麻酔科学